修立地区
まちづくり協議会通信
立志
令和６年１２月 25 日
第10号 特別号

「修立地区一斉避難訓練」をして分かったこと

12月１日（日）、修立地区史上初めての避難訓練を行いました。何はともあれまずは「**みんなで避難所に行ってみよう！**」を合言葉に、修立地区にある3カ所の避難所（公民館・小学校・東高）を同時に開設しました。結果、**合計149名**（公民館60名、小学校56名、東高 33 名）もの参加者がありました。

なにぶん修立地区史上初めての避難訓練（本当に巨大地震が起きれば、同時に開設するのは当たり前）でしたので、**「やってみないと分からない。やってみて初めて分かってきた」**ことの多い避難訓練となりました。

＜分かったこと その① ＞

避難所の収容人数には限度がある

修立地区には、市指定の「指定緊急避難場所（屋内）」（今回の避難所）が 3 カ所あります。その最大収容人数の合計は **3,930 人**です。修立地区の人口が R6 年現在 **3,800 人**ですので、いつ巨大地震が発生しても、数字上は修立地区の全員が、雨や雪を避けて屋内の 3 カ所に避難することができます。

名称	最大収容人数	適用性			
		洪水	土砂	地震	津波
修立地区公民館	60人	△	×	○	○
鳥取東高等学校	3040人	△	○	○	○
修立小学校	830人	△	○	○	○

しかし、当然この数字は、単純に「**全ての部屋の面積÷１人あたり2㎡（畳１帖分）**」で計算した数字なので、教室の家具や備品の配置等によっては、この半数も入れないかもしれません。

ましてや今回避難所の一つとして活用した山の手体育館は耐震強度が不足しているため、避難所に指定されていないのです。

＜分かったこと その2 ＞

「避難持ち出しバッグ」の準備が大事！

今回の避難訓練のねらいのひとつが、**「避難訓練を自分事として考える」**ことでした。

これまで学校や職場や地域で経験してきた避難訓練は、ほとんどが「**仕方なしに参加している訓練**」だったと思います。それはそれで必要な経験ですが、「やらされ感」は否めません。そこで、自分事として緊張感をもち、自分から訓練に参画していくための仕掛けが「避難持ち出し用バッグ」でした。

おそらく、この避難訓練に参加された方の多くが、「このバッグって、どれくらいの大きさ？」「どこに売ってる？」「何を入れていく？」などと心配したり調べたりされたりしたのではないかと思います。実は、そう考えることこそが、**「避難訓練を自分事として考える」＝「自分から訓練に参画する姿」**だと思うのです。

当日は、ほとんどの方が思い思いのバッグを持って来られていました。リュックサックや肩掛けやキャリーバッグなど大きさも中身（懐中電灯やシート、水や食料等）も様々でした。けれども、バッグを準備する時に思い描いた**「いざ（災害がきた）という時は、まず『自分の命は自分で守る！』という自助意識」**は、参加された方全員に共通する意識だったと思います。それが何より尊い事だと思うのです。

＜分かったこと　その3＞

寒い時期の避難訓練は自助意識が鍛えられる！

今回の避難訓練は、もともと 10 月 27 日の予定でした。ところが、選挙の関係で 12 月に変更になったことで、「自助意識が鍛えられた」のではないかと感じました。どういうことかと言うと、当日の気温が低かったために、上履きを持参していない方は足が冷たくて、「しまったなぁ。スリッパを持って来れば良かった。もしもの時には、あらかじめ準備しておきたいな」と、避難所での自分の姿を想像して準備しようとする自助意識が高まった方が多かったのではないかということです。

初めから寒い時期に行う避難訓練であれば、チラシの持ち物リストに「スリッパ持参」を書いていたかもしれません。しかし今回のように、温かい時期から急きょ寒い時期に変更になったことで、スリッパ持参の自助意識が芽生えたのであれば、防災訓練の意味も深まります。（考えてみれば、阪神大震災は 1 月 17 日、東日本大震災は 3 月 11 日、能登半島地震は 1 月 1 日」に発災している）

ちなみに修立小学校では、写真のような「新聞紙スリッパ」の作り方を学んでいます。小学生に作り方を教えてもらったり、調べたりして「新聞紙スリッパ」を今から準備しておくことも決してムダなことではありません。

＜分かったこと　その 4＞

避難所運営には日頃のコミュニケーションが大変役に立つ

今回の避難訓練の成果の一つは、**「ネットワークを広げることができた」**ことでしょう。関係役員はもちろんのこと各団体の関係者、各町内の役員、さらには避難所の関係職員の皆様と緊密にコミュニケーションが取れ、結果として新たなネットワークも広げることができました。とりわけ、これまで東高とのコミュニケーションはほとんど無い状態（昨年度の文化祭で東高書道部に出演してもらったことが布石となっている）でしたので、今回の訓練をきっかけに、新たな取り組み（例：避難物資の常設、開設場所の拡大、合同避難訓練など）にもつなげていけるのではないかと期待しています。

そして今回改めて確認できたことは、「避難所の運営には、日頃のコミュニケーションが大変役に立つ」ということです。避難訓練に参加された方の多くは、これから何が始まるのか見通せず、不安と心配で複雑な表情をしておいでになっていました。

そんな時、「あら～〇〇さん、寒いのによう来んさったなぁ。」と声をかけられたとたんに、表情がパッと明るくなった方が何人もありました。たった一言の声かけなのですが、あるとないとでは大違いです。ましてや実際の災害現場ではなおさらでしょう。やはり、普段（平時）からもっともっと沢山声をかけ合える修立地区でありたいと思います。

＜今後の取組みについて＞

最後に、今後の防災に関わる取組みについて、「こんなことができたら（あったら）イイなぁ。」「やったら確実に成果につながるだろうな。」と思うことを挙げてみます。

① 毎年 1 回は防災に関わる研修会や避難訓練等の行事を行っていきたい。
② 防災マップの改訂等、防災に関わる広報の充実を図りたい。
③ 誰もが楽しめ、誰もが参加しやすい行事を実施して、もっともっとコミュニケーションを広げ深めたい。
④ 各家庭で、定期的に防災に関わる（災害情報のやり取り、避難経路、持ち出し品の確認等）話し合い（防災家族会議）をしていただきたい。